



● 柚木沙弥郎さんの子供の絵本の色

柚木さんは、100歳を超えて現在も活動されている染色家です。伝統的技法の型染や注染などでとても有名ですが、ロゴやモチーフの意匠、人形や立体的なオブジェ風のもの、版画や水彩画なども制作されています。

最近では、紙を使って切り絵アートなどの作品も多く手掛けられ、その切り絵の色のカラフルさ、遊び心もあり、比較的明るくとても温かみがあります。子供から大人までわくわくする作品に目を奪われます。

絵本の作品は、約15冊の読みきかせの赤ちゃん向けから小学校に入りたてのお子様向けなどがあり、とてもほのぼのする人の顔、動物や植物の絵もありました。地元図書館を含めて、10冊ほど興味深く拝読しました。

本によっては、絵画作品のように比較的あざやかな、子供が使う絵具やクレヨンなどの代表的な色の赤、橙、黄、緑、青などの濃淡を中心に、白、灰、黒、茶、紫の使用やピンクが背景に使われていました。

色感を養ったり、お話の展開に想像力などがかき立てられて、お子様の成長にも役に立つシンプルな絵だと思いました。ことばと柚木さんの絵のユーモアさも相まって、思わず笑みがこぼれました。 (瀧川優子)

● 学会員の著書のリスト化を考える

日本色彩学会会員が執筆された書籍の一覧表を作成して、学会のホームページの「色彩データ・ライブラリ」から検索することができれば、色彩教材のソースを蓄積することになり、研究会員にとって有益なものになると私は考えました。

この活動の中心は、教育普及担当役員か、色彩教材研究会が適任と思います。

現在の本学会員に、自分が書いたり、監修した単行本を対象にして、「書名」「著者・監修者名」「出版社名」「初版発行年」「内容による分類」「短評」「版形・頁数」などのリストを送信してもらうよう、「学会メニュー」で回答を全学会員に依頼します。

何方か、集計作業が楽になるようなアプリを探して推薦してください。

これらの情報が届きましたら、順次、ホームページの「色彩データ・ライブラリ」に掲載し、大会や研究会などで、公表しながら、充実していくと良いでしょう。

次は、色彩科学協会の時代まで遡り、過去の会員の著書も収録できれば、さらに充実した資料群となることでしょう。

ご検討くださり、ご意見を永田宛に送ってくださるようお願いします。 (永田泰弘)

● 大辞泉ひろいよみ 46 一か

画料：絵の代金。画稿料。絵の題材。

枯れ色：草木の枯れた色。また、枯れしぼんだようす。襲の色目の名。表は黄、裏は青。一説に、表は白、裏は薄紫。冬に用いる。

枯れ野：草木の枯れはてた野。冬枯れの野原。襲の色目の名。表は黄、裏は薄青または白。冬に用いる、かれのがさね。

画廊：美術品を陳列・展示する場所。また、画商の店をさすこともある。ギャラリー。

画楼：美しく装飾した楼閣。絵画を陳列した楼。

革色：かわいろ。革を多く染めるのに多く用いたところから、緑がかった紺色。

かわおどし：革威。鎧の札（さね）を革ひもでつづり合わせること。また、その鎧。

土器色：かわらけいろ。土器のようにくすんだ黄褐色。

寒紅梅：梅の一品種。寒中に紅色の八重の花が咲く。

間色：原色と原色との間の、柔らかい感じの色。二種以上の混合によって生じる色。中間色。画面の調和を保つため、光の当たっている部分と陰とを、柔らかくつなぐ色。

寒色：寒い感じを与える色。青やその系統のいろ。逆は暖色。 (永田泰弘)